

今週（9月13日から9月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終日までは、先週末から調達サイドの調整によりレートが低下した流れを受け、徐々にレートが低下する地合いとなった。13日の無担保コールO/N物の加重平均レートは▲0.016%であったが、最終日の15日には▲0.033%まで低下した。新積み期間に入った16日は、基準比率が15.0%（前積み期間：18.5%）に低下した。これ自体はレートの低下要因ではあるものの、地域金融強化のための特別当座預金制度が開始された事で、特別付利により地銀業態を中心に調達ニーズは強く、加重平均レートは上昇した。連休前の17日には週末要因により取り上がる動きが見られ、レート上昇の展開となった。ターム物も特別付利の効果により、地域金融機関の調達意欲は強く、月内物を中心に高止まりとなった。日銀当座預金残高は、週を通して528～530兆円台での推移となった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.100～▲0.060%のレンジでの取引となった。週前半は、積み最終にかけての投資家の資金調達意欲が強く、レートは小高く推移した。週後半は積み序盤となり、投資家の資金調達意欲が弱く、レートは低下基調となった。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、オペが引き続き少額での実施となる中、3Mゾーンと1Yゾーンが軟調に推移した。

14日に行われた短国買入オペは、前回と同額のオファー額（1,000億円）で実施され、弱めの結果となった。応札倍率が高い状態が続いており、売却需要の強さが意識される結果となった。

16日に実施された1Y物の入札は、短国買入オペの少額実施が続いていることで、オペ売却見合いの購入需要が後退したこともあり、甘めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

17日に実施された3M物の入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は輸送機器・電気機器・石油業態を中心に大型発行が連日行われ、活況なマーケットとなった。週間発行・償還総額は共に1兆円程度と概ね横ばいであった。発行額が膨らんだため、期内物だけではなく期越え案件もある程度見られたが、引き続き期越え物の玉不足感は依然として強い。17日時点の市場残高は先週末に引き続き25兆円を若干下回って推移している。新型コロナオペの根強い担保需要から投資家側による積極的な買いが見られ、希少銘柄のプライマリーのレートは▲0.09～▲0.07%と低水準で推移している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/13（月）	30,447.37	0.040	109.96	△ 0.016	△ 0.065	5,282,000
9/14（火）	30,670.10	0.040	110.07	△ 0.024	△ 0.065	5,292,300
9/15（水）	30,511.71	0.030	109.64	△ 0.033	△ 0.100	5,284,800
9/16（木）	30,323.34	0.040	109.40	△ 0.026	△ 0.100	5,303,600
9/17（金）	30,500.05	0.045	109.80	△ 0.022	△ 0.094	5,297,300

来週（9月21日から9月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/20 (月)	敬老の日				
9/21 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB6M 34,000億円 9/27発行	流動性供給 4,000億円 9/22発行		米FOMC(1日目) 8月の米住宅着工件数
9/22 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30)				米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 8月の米中古住宅販売
9/23 (木)	秋分の日				
9/24 (金)	8月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 50,000億円 9/27発行			8月の米新築一戸建て販売件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/20 (月)	敬老の日								
9/21 (火)	▲ 500	75,000	74,500	CP買入 国債補完	▲ 400 300		▲ 100	74,400	TB3M発行▲50000償還60000 TB1Y発行▲35000償還15600 5Y償還9400 10Y償還53400 20Y償還5100 変動15Y償還8000 エネルギー対策借入▲6000期日6000
9/22 (水)	0	▲ 4,000	▲ 4,000	新型コロナオペ	▲ 186,700		▲ 186,700	▲ 190,700	流動性供給▲4000
9/23 (木)	秋分の日								
9/24 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	社債買入		800	800	▲ 2,200	
週間合計	▲ 1,500	69,000	67,500	—	▲ 186,800	800	▲ 186,000	▲ 118,500	

9/20は日銀予想、9/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、地銀業態を中心に調達ニーズは底堅く、レートは高止まりの展開が予想される。レポ市場は、GC T/Nは、概ね横ばい圏で▲0.100~▲0.08%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、21日に6M物の入札、24日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、営業日数が少なく、特段のイベントは無い。期末に向けてどの程度期越え物案件が膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では21~22日に金融政策決定会合、海外では21~22日にFOMC、23日に英中銀MPC結果発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入